様式Ｆ－１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 6 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2011～2012
課題番号：２３７１０２９１
研究課題名（和文）　中央アジアにおける国際関係の形成とその課題：水・領土問題にみる地域統合の展望

研究課題名（英文）　Formation of International Relations in Central Asia: The case studies of water and territorial disputes

研究代表者
ティムール　ダダバエフ（TIMUR　DADABAEV）
筑波大学・人文社会系・准教授
研究者番号：１０３７６６２６

研究成果の概要（和文）：

本研究は、これまで総合的に取り上げられてこなかった旧ソ連中央アジア地域の国際関係に着目した。地理的には、旧ソ連中央アジア地域に焦点をあて、この地域の各国が独立後に地域外の国々とどのような関係を構築してきたかを分析した。そして、中央アジア内における諸国間関係を取り上げ、その特徴や各国の外交政策の方向性、外交政策と国内政治のつながりなどを検討したものである。

研究成果の概要（英文）：

This study has focused on the formation of the International Relations in Central Asia. It has done so through two facets. Firstly, it analyzed relations of Central Asian states after the collapse of the Soviet Union with their larger neighbors like Russia and China as well as countries which served as major donors for the region such as Japan. Secondly, this study focused on relations between Central Asian states and emphasized raising tensions in water and territorial dispute resolution.

This study, develops the message that the artificially introduced administrative borders during the Soviet era and later subject to the processes of re-delimitation after 1991, whether for security, administrative, mutual distrust or for the population's ethnic attachment reasons have become results and means of political manipulation and pressure on each other, further pushing regional states to follow mutually exclusive policies with respect to regional cooperation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	3,500,000 円	1,050,000	4,550,000 円

研究分野：国際関係学
科研費の分科・細目：地域研究・地域研究
キーワード：中央アジア、国際関係、領土問題、水問題、シルクロード外交

１．研究開始当初の背景

旧ソ連中央アジア諸国の国際関係や地域の安定化と発展は、その多様性・歴史性から重要な研究課題とされてきた。しかし、課題の総合的な理解に有効な仕組みを指摘する研

究は非常にまれであった。例えば、湯浅（2004年）や岩下（2009 年）のような個別の問題として中央アジア諸国の CIS や上海協力機構への参加に関する叙述的な研究か、ドジャラロフ（2004 年）の水問題に関する解説やセングプタ（2002 年）の国境・領土問題に関する研究があるが、そこでは中央アジア諸国間の関係については部分的に言及されているに過ぎない。これに対して、本研究は、①独立から現在までの転換期について、中央アジア諸国が国際社会とどのように接してきたのか、その戦略はいかなるものだったのかを論じた上で、②中央アジアと国際社会の関係について、中央アジアには様々な国際機構や枠組みが存在するが、これらの実態や相互関連性、中央アジア諸国の見解を明らかにし、③中央アジアにおける地域統合がこれまで論題となってきたものの、その過程が現在どのような段階にあるのか、地域統合が中央アジア各国から支持されているにもかかわらず進展しないのはなぜかを分析し、④中央アジア諸国の関係における水問題、領土問題、天然資源を位置づけ、分析を進めた。

２．研究の目的

本研究は中央アジア地域における国際関係を主に二つの切り口から検討した。第一に、中央アジア諸国間の関係を中心課題として念頭に置きながら、中央アジア諸国と周辺諸国の関係に着目し、その歴史や特徴、現状を把握した上で将来性に言及した。諸国間関係にかかる中心的問題認識の一環として、まず、中央アジアに歴史的に影響力を持ってきたロシア、近年この地域における影響力を拡大しつつある中国、そして中央アジア諸国との関係を構築しつつある日本との関係を取り上げた。そして中央アジア諸国間の関係に言及し、水・領土問題の分析を進めた。

３．研究の方法

具体的には次の点を考察してきた。

１）中央アジア諸国は旧ソ連圏においてどのような関係を構築しているのか

ロシアと中央アジア諸国の国家間関係の展開において、本研究は中央アジア諸国のロシアとの二国間レベルでの関係を取り上げ、各国のロシアに対する姿勢に一貫性はあるのか、ないとすればそれはなぜなのかを考察する。それを通して、中央アジア諸国が一体化しておらず、各国が外交政策においてロシアに対し異なる政策を実施している動機などを分析した。

２）中央アジア諸国と中国の関係における上海協力機構（SCO）の存在はいかなるものか

３）日本・中央アジア関係の現状と展望はいかなるものか。また、改善が必要な分野は何か

ソ連の崩壊以降、日本の地位は ODA や様々な支援を通して強化されてきた。これらは中央アジアにおける日本の重要性を確立したと言っても過言ではない。しかし同時に、日本と中央アジア諸国の関係がもつ潜在的可能性が現状では日本にとっても中央アジアにとっても十分に活かされていないという意見がある。多くの場合、日本による支援が中央アジアと日本の国民の期待に十分に応えているとはいえないのが現状である。

本研究はそのような問題を取り上げ、日本の中央アジア地域における参加効率（プレゼンスの拡大）をどのようにすれば向上させることができるかを検討する。日本は中央アジア諸国にとって最大の支援国であり、これらの課題における日本への期待は大きい。それに応えるためには、ODA を対象国と日本両国の国益に沿った形でより効果的に使用することが重要である。その過程では、少なくとも以下の２点が鍵となる。本研究は、第一に、日本の中央アジア地域における ODA 政策とその効果に言及し、これまでの ODA 中

心の中央アジアへの関与の効果を述べ、その効果をさらに強化し得る部分に注目する。そして、日本の ODA 支援を、地域全体を巻き込み、国家間関係を強化するような新しいフロンティアへと位置づけることを検討する。第二に、2004 年 8 月末の川口外相による中央アジア訪問の際に発表された「中央アジアプラス日本」というフォーラムの効果とそれに関する複数の課題について言及する。

また、本研究はもう一つの問題認識として、中央アジア諸国の相互関係構築の現状と、そこに横たわる課題を追及する。特に注目するのは、域内協力の強化と促進、水問題、そして国境の制定および管理である。そのため、この部分では、以下の問いへの答えを探った。

４）国家間の相互不信が存在する中で域内協力の促進は可能か

中央アジアの国々は協力の重要性を宣言するものの、それを十分に共有し実現するための具体的努力が不十分な場合が多い。その結果、各国が諸課題を多国間の協力を通してではなく、一方的な手段で解決しようとする事例が多くみられる。そのような措置は安全保障、経済再建、地域内協力における課題の解決策になるとはいえず、むしろ国家間関係を悪化させる。本研究はそのような相互不信の根本的な理由ときっかけを追及する。特に、これまでの中央アジア諸国の独立後の歴史において「トルキスタン一我が家」、中央アジア連合、中央アジア協力機構、中央アジア協力フォーラムといった様々なイニシアティブが存在したにも拘わらず、いずれも失敗している理由を検討する。中でも、なぜ各国のリーダーが「地域統合」という概念に支持を表明しながら、その概念の定義に関して合意に達することができないのかを問う。各国のオフィシャルなディスコースにおいて「統合」はどのような意味を持ち、その定義が各国の独立後どのように変わってきたのを分析した。

５）水資源、土地と資源の分配・交換・使用における課題は何か

本研究の最後の問いとして、現在の中央アジアにおける水・土地・エネルギー資源分配において国家間の関係はいかなるものなのか、資源の管理と分配は国家間でどのように行われているのか、その欠点と利点はいかなるものなのか、更に、この地域において国家間の水使用にどのような問題が存在しており、これらの問題をどのようにして解決すべきなのかを取り上げた。

４．研究成果

・本研究は、この地域の国際関係の仕組みがこれらの国が直面している問題解決に有効であるとすれば、それはどのような側面においてなのか、その中で各国政府と非国家アクターの役割はいかなるものかを明らかにすることを試みた。そうすることで、本研究はこれらの国が時代・状況・環境の変化に応じて各国が直面している問題を解決しつつ、相互・国際社会と対等な関係構築のための具体的かつ新たな手法を明らかにすることを目指す。

・本研究は、以上の問いを通して、この地域における新国家の独立、新国家形成やこれらの国の国際社会とのかかわりに関する貴重な情報を提供する。類似の研究が未だ少ない中、調査や（東京大学出版会との契約済の単行本の）出版を通して、現地から直接情報を提供する意義は大きい。この観点から、本研究は日本および中央アジア地域における中央アジア研究のさらなる深化に寄与するものであると考えられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

1. Timur Dadabaev, 2013, "Japan's Search for Its Central Asian Policy: Between Idealism and Pragmatism", Asian Survey 53:3, May/June 2013 (University of California Press, 印刷中), 査読の有

2. Timur Dadabaev, 2012, "Securing Central Asian Frontiers: Institutionalization of Borders and Interstate Relations in Post-Soviet Central Asia", Strategic Analysis, (Routledge, Taylor and Francis), Vol. 36, No. 4, July-August 2012, 554-568, 査読有

3. Timur Dadabaev, 2012, "The Evolution of the Japanese Diplomacy towards Central Asia since the collapse of the Soviet Union"OSCE Yearbook 2011: Yearbook on the Organization for Security and Co-operation in Europe (OSCE), Vol. 17, Baden-Baden: Nomos, 2012, pp.441-458, 査読有

〔学会発表〕（計１件）

1. Timur Dadabaev, "Eurasianism: Ideas and Implications in Central Asia", Rurasian Studies, Swedish Research Institute in Istanbul（招待講演）, 2012.5.31, Istanbul（トルコ）

６．研究組織

(1)研究代表者

ティムール　ダダバエフ（TIMUR DADABAEV）
筑波大学・人文社会系・准教授
研究者番号：10376626